

第5学年 家庭科学習指導案

い組 男子17名 女子16名 計33名
指導者 江平 佳代

1 題材 生活に役立つ物を作ろう I～古着の大変身～

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

この期の子どもたちは、家族の役割や家庭での自分の仕事についての学習を通して、自分は家族の一員であることを実感し、「自分や家族のために物を作りたい」という願いをもっている。また、小物を製作する活動を通して、目的に応じた縫い方を考え、手縫いをする学習をしてきた。

そこで、本題材では、生活に役立つ物を製作するために、古着を用意したり、縫ったりする活動を通して、古着を再利用した物と既製品を時間や思いなどの観点で比較し、古着を再利用するよさに気付くとともに、製作手順を考えたり、縫い方を工夫したりして、古着を用いて生活に役立つ物を目的に応じて製作することができるようになることをねらっている。また、ミシンの安全な取扱いや直線縫いの基本的な操作を身に付け、家庭生活への関心を高め、自分や家族のために生活に役立つ物を製作したいという実践的な態度を高めることをねらっている。

これらの学習は、贈る相手や使う目的に応じて、包まれる物の大きさや形、厚さなどを考えて、一枚の布から生活に役立つ物を製作する学習へと発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

布は、吸水性や通気性、保温性、伸縮性などがある。また、色や模様、厚さなど様々な特徴があり、私たちの生活の中において多様な場面で使われ、生活になくってはならないものとなっている。古着を用いて製作することは、衣服の思い出を残すことができ、再利用をすることで資源を大切にでき、環境面によい。また、古着は既に布端の始末がしてあるため、古着を用いて製作することは、ミシン縫いの入門期の子どもたちにとって、元の形を利用して生活に役立つ物を製作することができ、製作しやすいというよさがある。

これらのことから、古着を用いて生活に役立つ物を製作することは、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、製作手順や目的に応じた縫い方を工夫したり、自分の家庭生活をよりよくしていくために工夫しようとしたりする実践的な態度を育てる上から大切である。

そこで、本題材では、資源を大切にするといった環境面や先人の知恵から生まれた生活文化などの視点から古着を再利用するよさに気づき、ミシンの安全な取扱いや直線縫いをするために必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付ける。そして、試しの活動としてグループで共通課題に取り組むことで、目的に応じた縫い方や製作手順を考えることを大切にしたい。

具体的には、まず、古着を用いて製作した物と安価で手に入る布製品を時間や思いなどの観点で比較させることで、古着を再利用するよさに気付かせ、古着を用いて製作する意欲を高める。また、古着がゴミとして出されている現状、布が貴重であった時代から生まれた先人の知恵を生かした現代の作品にふれさせることで、資源を大切にするといった環境面や先人の知恵から生まれた生活文化などの視点から古着を再利用するよさに気付かせる。次に、グループでTシャツからクッションを製作するという共通課題に取り組ませ、課題を明らかにしながら解決する方法を考え、全体で共有する。そして、グループで製作する中で見いだした目的に応じた工夫をもとに自分の製作計画を立て、古着を用いて生活に役立つ物を製作させていく。

これらの学習を通して、古着を再利用するよさや手縫いやミシン縫いを目的に応じて用いるよさに気づき、ミシンの安全な取扱いや基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、目的に応じた縫い方を考えて製作すると共に、生活に役立つ物を製作することができるようになった喜びや製作した物を使う楽しさを実感することで、自分や家族のために生活に役立つ物を製作し、家庭生活をよりよいものにしようとする実践的な態度を高めることができるものとする。

(3) 児童の実態（質問紙法、複数回答有り）

- | | |
|---|--|
| ① | 家庭生活の中でできるようになりたいこと
調理 22, 裁縫 9, 洗濯 5, 片付け 3, そうじ 2, 家族の手伝い 2 |
| ② | 家庭科の学習をどのように生活に生かせるか
手伝い 12, 調理 11, 一人暮らし 8, 裁縫 4, 器用さ 1, 無回答 1 |
| ③ | 古着を再利用することのよさ
環境面 19 (ごみが減る 12, エコ 5, 再利用できる 2), 消費面 7 (物を大切にすることができる 5, 費用がかからない 2), 思い出 3, 製作面 3, よさはない 1, 分からない 1, 無回答 1 |
| ④ | ミシン縫いの経験
○ある 11 ○ない 22 |
| ⑤ | 製作するときに気をつけること
安全面 6, 製作計画 5, 分からない 5, 無回答 4, 使いやすさ 5, じょうぶさ 2, 大切な物を作る 2, 縫い間違いをしない 2, 役に立つか 2 |
| ⑥ | 学び方
実際にやってみる 12, 身近な人にインタビュー 12, 経験をもとに考える 4, 本 4, 無回答 4, 分からない 3, インターネット 2, 教科書 1, 予想を立てる 1 |

本学級の子どもたちは、①より、家庭生活と裁縫があまり結び付いていないことが分かる。このことから、子どもたちの中で衣生活が生活をよりよくするために必要な視点であることの意識が低いことが考えられる。②より、家庭科の学習が自分の生活と関係していると感じていることが分かる。これは、家庭科で学習したことを家庭で生かせることに気付いており、生かしたいという実践的な意欲が高いと考えられる。③より、環境面のよさや、消費面のよさに気付いている子どもたちが多くいることが分かる。しかし、思いを残すことができる等のよさに気付いている子どもたちが少ないことから、既製品と古着を再

利用して製作した物を思い等の観点で比較したり、布を大切にしていた昔の生活文化にふれたりして、古着を再利用するよさに気付かせる必要があると考える。④⑤より、ミシンで製作した経験がない子どもたちが多いことが分かる。ミシン縫いの経験がある子どもたちの中には製作するときに気を付けることとして、安全面の視点をもっている子どもたちはいる。このことから、ミシンの安全な取扱いや基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図っていく必要があると考える。⑥より、実際に行うといった方法で学習していきたいと考えていることが分かる。一人一人がよりよい方法を見いだすことができるような学習を展開していく必要があると考える。このことから、子どもたちの考えを生かし、実際に行う等の活動を大切にしながら学習をしていきたい。

このような結果から、古着をごみとして捨てることで環境に与える影響を考えたり、昔の生活文化を知り、作品にふれたりすることを通して、古着を再利用するよさに気付かせるとともに生活を総合的にとらえ自分の生活の課題に気付かせたい。また、グループでの試しの活動を設定することで、課題を見だし、解決することを通して、ミシンの安全な取扱いや直線縫いの基礎的・基本的な知識及び技能が定着し、生活を工夫する力を身に付けることができるようにしたい。

(4) 指導上の留意点

- ア 古着を生活に役立つ物に変身させたいという製作の意欲を高めるために、古着を用いて製作した物と既製品を思いや時間などの観点で比較したり、古着がごみとして捨てられている現状や先人の知恵から生まれた生活文化を生かした作品を示したりすることを通して、古着を再利用するよさに気付くことができるようにする。
- イ 目的に応じて縫い方を考えたり、製作の手順を考えたりすることができるようにするために、試しの活動としてグループごとに共通課題に取り組みせ、「見た目のよさ」「じょうぶさ」「使いやすさ」などといった視点から課題に気付かせ、手縫いとミシン縫いを使い分けたり、返し縫いや中表にして縫ったりする必要性に気付かせる。また、用具の安全な取扱いや直線縫いの操作を身に付けることができるようにするために、映像を見せたり、模範を示したりして、子どもたちの実態を確かめながら定着を図っていく。
- ウ 試しの活動を自分の製作に生かすことができるようにするために、試しの活動での課題の解決策や情報交換で気付いた目的に応じた工夫などと自分の製作を関係付け、目的に応じた縫い方や製作の手順を考えさせる。また、自分の成長を実感することができるようにするために、作品の発表会を行い、目的に応じた縫い方や製作の手順を考えて古着を用いて生活に役立つ物を製作できたことを価値付ける。さらに、家庭での実践意欲を高めることができるようにするために、今後の家庭生活において学習したことをどのように生かせるかについて話し合わせる。

3 目 標

- (1) 古着を用いて生活に役立つ物を製作することに関心を持ち、手縫いやミシン縫いのよさを生かしながら目的をもって古着を用いて生活に役立つ物を製作しようとする事ができる。
- (2) 自分のグループの成果や課題と他のグループの成果や課題を比較して、課題の解決方法を考えたり、情報交換で気付いた工夫等を自分の製作に関係付けて製作計画を考えたりすることができる。
- (3) 環境面等の視点から古着を再利用するよさに気づき、ミシンの安全な取扱いや直線縫いの操作などを身に付け、手縫いやミシン縫いで生活に役立つ物を製作することができる。

4 指導計画 (全12時間)

過程	学ぶ喜びや楽しさ	主な学習活動	教師の具体的な働きかけ											
みつめる・つかむ・見通す	古着を再利用することは環境にもよいのだな。買うことは簡単だけれど、思い出のある古着を生活に役立つ物に変身させたいな。	1 古着を再利用するよさにはどのようなものがあるか話し合い、学習テーマを設定する。① (本時) (再利用の方法) ・リメイク ・リサイクル ・人にあげる ・フリーマーケット ・バザー など (再利用するよさ) ・資源を大切に長く使うことができる ・ごみが減る ・思い出を残せる など	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭を振り返り、問題意識をもつことができるようにするために、先人の生活文化を伝えたり、刺し子やパッチワークなどの作品を提示したりする。 ○ 古着で製作する意欲を高めるために、古着から製作した物と既製品を時間等の観点で比較させる。また、古着を再利用するよさを環境面の視点から実感できるようにするために、現状を示し、ごみに出すことで環境に与える影響を考えさせる。 ○ 安全なミシンの取扱い方や直線縫いの操作など、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けさせるために、カードで取扱い方等を確認させ、練習させる。 ○ 製作する中で課題に気づき、解決方法を考えることができるようにするために、グループで共通課題に取り組ませ、目的に応じた工夫を考えさせる。 ○ 課題の解決方法を導き出せるようにするために、製作した作品を観察させ、「見た目のよさ」「丈夫さ」「使いやすさ」などの視点から気付いたことや課題の要因について話し合わせる。 ○ 他のグループと情報交換できるようにするために、自分のグループの解決方法や課題をワークシートに書かせる。 ○ 課題を解決することができるようにするために、実物や写真をもとにして情報交換を行い、自分のグループの成果や課題と他のグループの成果や課題を比較させる。 ○ 試しの活動の結果等を自分の製作に生かせるようにするために、情報交換で気付いた工夫等を自分の製作に関係付けさせ、製作計画を立てる。 ○ 家庭でも作りたいという意欲をもたせるために、作品の感想を家族からもらい、家庭生活での生かし方を話し合わせる。 											
	丈夫に早く縫うためにミシン縫いが生かせそうだ。ミシン縫いの方法を知りたいな。	2 学習計画を立て、製作したい物をイメージする。また、ミシンについて知り、ミシン縫いの練習をする。②③④												
	じょうぶにするためにミシンで縫ったけれど端がほつれてきてしまった。	3 グループごとに共通課題に取り組む。⑤⑥												
	縫い目が見えて見た目がよくないな。曲線になっているところはミシンでは縫いにくいな。	4 共通課題の成果と課題、課題の要因について話し合い、グループごとに結果をまとめる。⑦												
追求する	縫い目が見えて見た目がよくないな。曲線になっているところはミシンでは縫いにくいな。	<p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縫い目が見えている ・曲線の縫い方 ・端がほつれて中の綿が出る ・イメージ通りの大きさにならない など <p>← 見た目のよさ・丈夫さ・使いやすさ</p> <p>《課題の要因》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縫い方 ・順序 ・形 ・大きさ など <p>↓</p> <p>目的に応じた工夫をする必要がある。</p>												
	ミシン縫いと手縫いを場所によって変えればよいのだな。曲線のところは、手縫いで細かく縫うようにしよう。	5 グループごとの結果をもとに情報交換を行い、得た情報を生かして製作計画を立てる。⑧												
まとめる	ミシン縫いと手縫いを場所によって変えればよいのだな。曲線のところは、手縫いで細かく縫うようにしよう。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>見た目のよさ</th> <th>丈夫さ</th> <th>使いやすさ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・布端の始末</td> <td>・手縫いとミシン縫いの使い分け</td> <td>・大きさ</td> </tr> <tr> <td>・中表にして縫う</td> <td>・返し縫い など</td> <td>・ポケット</td> </tr> <tr> <td>・縫う順序 など</td> <td></td> <td>・綿の量 など</td> </tr> </tbody> </table> <p>目的に応じて、ミシン縫いや手縫いを使い分けたり、縫う場所や縫う順序などを考えたりして製作すればよい。</p>	見た目のよさ	丈夫さ	使いやすさ	・布端の始末	・手縫いとミシン縫いの使い分け	・大きさ	・中表にして縫う	・返し縫い など	・ポケット	・縫う順序 など		・綿の量 など
	見た目のよさ	丈夫さ	使いやすさ											
・布端の始末	・手縫いとミシン縫いの使い分け	・大きさ												
・中表にして縫う	・返し縫い など	・ポケット												
・縫う順序 など		・綿の量 など												
中表にして縫うと縫い目が目立たなくて見た目よくできたよ。次は、妹にシャツでバッグを作ってあげたいな。	6 製作計画をもとに製作する。⑨⑩⑪ 7 作品発表会を行い、学習してきたことを振り返り、今後どのように生かしていきたいか話し合う。⑫													
生活化への意欲付け														

5 本 時 (1 / 12)

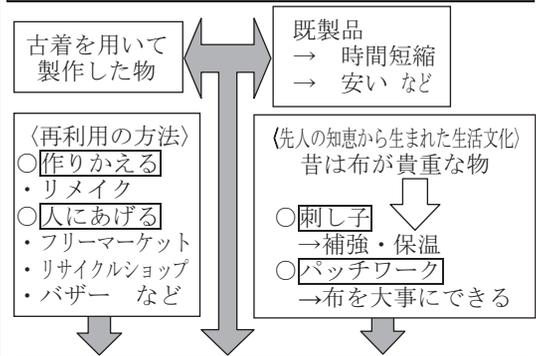
(1) 目 標

古着を用いて生活に役立つ物を製作することに興味をもち、環境面や消費面などの視点から古着を再利用するよさに気づき、自分の家庭生活での古着の使い方に結び付けて考えることができる。

(2) 本時の展開にあたって

本時の展開にあたっては、古着を用いて製作したいという思いをもつことができるようにするために、古着を用いて製作した物と既製品を思いや時間などの観点から比較させ、古着を再利用して製作するよさに気付かせる。また、衣生活における先人の知恵を伝え、布切れから製作した作品や写真を提示したりして、環境面や先人の知恵から生まれた生活文化などの視点から古着を再利用するよさに気付くことができるようにする。さらに、古着を提示しどのような物が製作できるかグループで話し合い、古着から製作するイメージをもつことができるような学習を展開していきたい。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時間(分)	教師の具体的な働きかけ
みる・つかむ・見通す	1 身の回りにある布製品について話し合い、自分たちの生活に役立つ物について考える。 2 学習課題を設定し、古着を再利用するよさについて話し合う。  私の家では古着を捨てたり、人にあげたりしているよ。古着を使うとどんなよいことがあるのだろうか。 古着を再利用するよさにはどのようなものがあるのだろうか。	↑ 5	○ 布製品が生活に役立っていることを実感させるために、身の回りにある布製品について話し合わせる。
追求する		20	○ 古着を用いて製作する意欲をもつことができるようにするために、「古着を用いて製作するよさは何かな」と問い、古着で製作した物と既製品を思い等の観点から比較させ、古着を再利用して製作するよさに気付かせる。 ○ 古着を再利用するよさを環境面から実感できるようにするために、古着が大量に捨てられている写真等を提示し「写真から考えられることは何かな」と問い、環境への影響を考えさせる。
まとめる	3 学習のまとめをする。 古着を再利用することで、思い出を残し、長く使うことができる。また、ごみを減らし、資源を大切にすることができる。	5	○ 先人の知恵から生まれた生活文化などから古着を再利用するよさを実感することができるようにするために、先人の知恵を伝え、「昔の人たちはなぜこのようなことをしていたのだろう」と問うたり、刺し子やパッチワークなどの作品や写真を示したりする。
生活化への意欲付け	4 古着からどのような物を製作することができるか話し合う。  ズボンの上の部分でバッグを作ることができそうだよ。ポケットもついているね。 5 学級のテーマを確認する。 古着を、見た目がよく、丈夫で、使いやすい生活に役立つ物に変身させよう。 6 振り返りカードを記入し、本時の学習を振り返る。	15	○ 題材を通して自分の成長を実感できるようにするために、古着を用いて生活に役立つ物を製作することで、家庭生活をよりよくしていくことにつながっていくことにふれる。 ○ 家族の一人として古着の使い方を考えられるようにするために、グループに古着を提示し、どのような物が製作できそうか実際に古着に触れたり既製品を見たりしながら話し合わせる。 ○ 課題意識をもって学習できるようにするために、最終的にどのような物を製作したいかを考えテーマを決めさせる。 ○ 次時の見通しをもたせるために、振り返りカードを記入させる。